

全国産業資源循環連合会青年部協議会中部ブロック 4ブロック交流事業

～新しい仲間と知識との出会い～

日 時 令和7年7月24日(木)15:00～17:00
場 所 グランヴェール岐山
参 加 者 青年部会員147名(うち愛産協青年部18名)

全国産業資源循環連合会青年部協議会中部ブロックは、7月24日(木)に岐阜市にあるグランヴェール岐山にて「4ブロック交流事業～新しい仲間と知識との出会い～」を開催しました。北海道・東北、信越・北陸、関東、中部の4ブロックから青年部のメンバーが集まり、講演会と交流会を通じて、災害廃棄物処理に関する知見の共有と業界内のネットワーク強化を図りました。

第一部の講演会では、福島県、石川県、愛知県の各産業資源循環協会から、災害廃棄物処理の経験を有する講師陣が登壇し、全3講演が行われました。

講演1「東日本大震災を経験して～今後に伝えたい想い～」
(福島県／渡部伸久氏)

講演2「災害廃棄物処理における廃棄物処理業者の役割」
(石川県／綿谷真之氏)

講演3「災害廃棄物処理業務実施にあたってのポイント」
(愛知県／山本浩也氏・入野智樹氏)

災害発生時の対応や仮置場運営、運搬・処分の流れに加え、過去の事例を踏まえた課題と今後の対策が示され、参加者は熱心に耳を傾けていました。

第二部の交流会では、「ここでしかできない体験」「ここでしか会えない仲間」をテーマに、ブロック間の垣根を越えた交流が活発に行われました。参加者同士が初対面ながら積極的に情報交換や経験談を語り合い、参加者同士の絆を深める貴重な場となりました。

竹田孔祐ブロック長は「今回の事業は、各ブロック長や中部ブロック幹事と何度も打ち合せを重ねており、無事に開催できたことに深く感謝しています。北海道・東北ブロックの講演では3.11後の復興支援事業についてお聞き



し、各ブロック青年部と事業を通じて復興支援の輪が広がっていたこと知り、青年部同士の絆を知ることができました。また、信越・北陸ブロックからは能登半島地震後の協会としての取り組みや、仮置場運営の苦労、DX化によるマニフェスト管理など、大変勉強になるお話をいただきました。全国から延べ5000台の協会トラックが支援に動いたというエピソードからも、この業界のつながりの強さを実感しました。そして最後に、中部ブロックからは仮置場運営訓練の重要性や、九州や四国での災害時の仮置場運営について学ぶことができ、大変有意義でした。実際に災害が発生した際に主に動くのは青年部会員だと私は考えています。今後は青年部と各県の災害対策委員、さらには市町村も巻き込み、仮置場訓練ができればと思い、今回の研修会を企画しました。」と振り返り、今後もこうした交流の継続に意欲を示されました。

また、懇親会では総勢147名の大懇親会が盛大に開催されました。レクリエーションでは、各ブロックに分かれて謎解きを行い、中部ブロックが連携と知識で見事1位に輝きました。積極的に名刺交換をする様子や、仲間と楽しそうに語り合う姿を見て、青年部は本当に素晴らしい場所だと感じました。今回の事業は、災害廃棄物講演で知識と出会い、懇親会で仲間と出会うことを目的としました。シンプルな言葉ながら、業界の発展はもちろん、青年部の横のつながり“絆・縁”を生む貴重な機会となりました。

